

東日本外壁仕上業協同組合(☎03-3374-3981)
近畿外壁仕上業協同組合(☎06-6533-0768)
福岡外壁仕上業協同組合(☎092-512-9141)

愛媛県仕上工事業協同組合(☎089-926-2067)
中国外壁仕上業協同組合(☎082-294-4878)

池田稚夫理事長を再選

東日本外壁仕上業協同組合で平成26年度通常総会開催

東日本外壁仕上業協同組合(池田稚夫理事長)は5月29日、東京・千代田区のスクワール麹町において、平成26年度通常総会を開催した。

議案審議では、平成25年度事業報告および決算報告、平成26年度事業計画および収支予算が、原案通り可決された。新年度の重点事業としては、登録基幹技能者を中心とした技能者育成に関する事業、長期性能保証制度事業の拡大、組合員の増強および経費削減の一層の努力、ホームページによる外壁仕上に関する啓蒙普及と情報提供、月刊「建築仕上技術」誌を活用した『NGS通信』による組合活動の広報などが挙げられた。

また、任期満了に伴う役員の改選も行われ、理事長の池田稚夫氏、副理事長の野口陽一氏、専務理事の小野澤昭氏、常務理事の西川岳人氏、加藤廣氏、高橋敦也氏(いずれも再選)ら新役員が決定した。

議事終了後には、西川岳人常務理事を講師に社会保険未加入対策の勉強会が行われ、続いて懇親会が開催された。

懇親会の席上挨拶に立った池田理事長は、「これからの我々の業界はまだまだ厳しいものがある。ただ、景気については安倍政権の『3本の矢』で回復傾向であり、当組合もい



挨拶する池田理事長



社会保険未加入対策の勉強会で講義する西川岳人常務理事



懇親会で来賓を代表して挨拶する小俣一夫 NPO 法人湿式仕上技術センター顧問



中締めの挨拶をする甲斐下雄司相談役

ろな形で矢を放っていききたい。まず成すべきこととして、組合員の増強がある。第2には、『安心・安全』の確保。工事業者の組合として、保険制度などを十分に活用していきたい。そして第3には、社会保険未加入対策の問題がある。国交省からは、平成29年度までに100%の保険加入を達成するよう通達があり、我々もその実現に邁進せざるを得ない状況だ。また、組合の底上げについては、登録基幹技能者を多く輩出し、より

組合が評価を得られるよう取り組んでいきたい」と、新年度に取り組むべき課題について語った。

懇親会は、NPO法人湿式仕上技術センター・小俣一夫顧問の「今後は職人を確保するだけでなく、ぜひとも教育・育成にも力を入れて、それを組合員の増強にもつなげてほしい」という乾杯の挨拶で開宴となり、甲斐下雄司相談役の中締めにより盛会のうちに散会となった。

岩田紳一氏を理事長に再選！ 近畿外壁仕上業協同組合が第39回通常総会開催

近畿外壁仕上業協同組合(岩田紳一理事長)は、5月29日、大阪市北区のウェスティンホテル大阪で第39回通常総会を開催した。同総会では平成25年度事業報告、同年度決算報告、平成26年度事業計画、同年度収支予算案などについて審議し、いずれも原案通り可決承認した。任期満了に伴う役員改選の結果、新理事長に岩田紳一氏を再任した。5時から開かれた懇親会で同理事長は「先ほど開催された総会で理事長を仰せつかりました岩



岩田紳一理事長

田であります。振り返れば理事長を務めてはや5期10年になります。これも組合員は勿論、関係各位のご協力のお蔭と感謝致しております。これからも執行部一同、存在価値のある組合として小さくとも結束力、行動力のある組合として事業を推進して参りますので、変わらぬご指導ご支援をお願い申し上げます」と挨拶した。席上、来賓として出席した平田研一・近畿地方整備局建設部建設産業調整官、山野義雄・大阪府中央会事務局長、松山功・集合住宅改善センター代表理事から祝辞があった。

新理事長に義野寛幸氏を選出

愛媛県仕上工事業協同組合は、5月16日に松山市・道後の「山の手ホテル」にて平成26年度通常総会を開催した。総会では平成25年度事業報告、同年度収支決算報告、平成26年度事業計画案、同年度収支予算案

などを審議、いずれも原案とおり承認決定した。一方、任期満了に伴う役員改選では、新理事長に義野寛幸氏(ぎの建築塗装商会社長)、副理事長に池田貞伸氏(竹林塗装(株)社長)を選出するなど新役員を決定した。

建専連が第13回通常総会を開催

一般社団法人建設業専門団体連合会(才賀清二郎会長)は、6月3日午後3時30分より東京・霞ヶ関の東海大学校友会館で第13回通常総会を開催した。



才賀清二郎会長

総会では平成25年度事業報告承認の件、同年度収支決算承認の件、平成26年度事業計画案審議の件、同年度収支予算案審議の件などの議案が

上程され、いずれも原案通り承認決定した。

総会後、屋敷・国土交通省建設市場整備課長より「最近の建設産業を巡る諸問題」と題する講演があった。また、才賀会長ら幹部は総会後に会見し、2014年度は適正工期・適正価格でも発受注や社会保険加入促進、労務賃金引上げなど若年者の入職促進を中心に事業を展開していく考えを明らかにした。

■ 40年の歴史をもつ全国組織です ■

日本外壁仕上業協同組合連合会(本部/東京都・会長 野口陽一:略称NGS)は、昭和42年に日本建築仕上材工業会の前身である日本防水リシン工業会の施工部門が独立して設立された建築吹付工事の専門家組織です。今日、外壁仕上協同組合連合会所属の会員会社は、吹付・塗装を業務の核としながらも、屋根・防水・内装工事など幅広い事業展開をしており、時代が求める総合リフォームのプロ集団へと変貌を遂げつつあります。国土交通省の行政指導のもと以下の全国5地区に事務所を置く協同組合の連合体です。活動状況など詳しくは本部事務局または各組合事務局にお訊ね下さい。
□東日本外壁仕上業協同組合(理事長:池田 雅夫)
□近畿外壁仕上業協同組合(理事長:岩田 紳一)
□愛媛県仕上工事業協同組合(理事長:義野 寛幸)
□福岡外壁仕上業協同組合(理事長:川口 大介)
□中国外壁仕上業協同組合(理事長:稲本 和生)

■ 登録外壁仕上基幹技能者を育成 ■

登録基幹技能者制度は、建設産業の労働生産性の向上、品質・性能・安全の確保のために建設27業種35団体が整備された制度です。基幹技能者は、専門工事業種ごとの高度な専門知識・技能を有するだけでなく、建設一般に関する幅広い知識を有する人材です。それゆえに、現場の実態に応じた的確な施工方法を技術者に提案することができ、関連業種との調整能力も発揮する人材です。

また、効率的な工事推進のための優れた現場管理能力・原価管理能力を有し、建設産業の労働生産性を高めることに資することのできる人材です。登録外壁仕上基幹技能者になるためには、塗装・吹付分野での熟練技能者、上級職長に位置付けられます。建設現場で働く技能者をリーダーシップをもって束ね、指示・指導しながら、優れた塗装・吹付工事を達成できるよう努める人材です。登録外壁仕上基幹技能者になるためには、塗装・吹付分野での10年以上の実務経験と3年以上の職長経験が必須となります。そのうえで、外壁仕上一般技能者合格者または国土交通大臣優秀施工顕彰者(建設マスター)であるという条件が必要となります。

当該資格は、吹付塗装の分野における最上位資格であります。登録基幹技能者を目指すことは、技能者が段階的にスキルアップしていくための大きな目標となります。国土交通省は、登録基幹技能者に対する経営事項審査(経審)の加点について、Z(技術力)の評価項目の中で、一人当たり一律3点を加点することを決定しています。国土交通大臣に登録をした機関が実施する登録基幹技能者講習を修了し試験に合格した者は、新たに経営事項審査で加点されることとなります。さらに、大手ゼネコンの協力を得ることを通じて、基幹技能者の賃金を底上げしているような制度も模索されており、基幹技能者への期待は拡大しつつあります。

日本外壁仕上業協同組合連合会は、国土交通省令第3号建設業法施行規則の一部を改正する省令(平成21年4月28日付)に基づき、基幹技能者認定講習会を運営実施する認定団体として登録されました。講習は、建設業法施行規則第18条の3の6の規定に基づき「登録建設塗装基幹技能者」の認定を行う講習会であり、当該資格を取得するためには、この講習を受け、試験に合格する必要があります。吹付・塗装分野に携わっておられる方は、積極的に登録外壁仕上基幹技能者試験の受験をお勧め致します。登録基幹技能者の具体的役割は、建設工事現場の要となる、上級職長等として、以下の役割を通じて効率的で生産性の高い工事を実施する者を指します。

1. 現場の状況に応じた施工方法、工程等の提案、調整等、2. 現場作業を効率的に行うための技能者の適切な役割分担等作業手順の決定、3. 他の技能者の施工に係わる指示、指導、4. 前工程・後工程に配慮した他の職長等との連絡調整。登録基幹技能者に必要な能力は、1. 吹付塗装の技術に熟達していること、2. 吹付塗装の技術に関連する知識、技術の進展等に対応していく力、3. 現場をまとめ、体系立った効率的な作業を実施するための管理能力、4. 塗装・吹付に携わる方。

■ 受験資格・手続き・経営審査 ■

平成14年~20年に外壁仕上基幹技能者に合格された旧基幹技能者の方は、制度が登録外壁仕上基幹技能者になるにあたり、特例講習を受講する必要があります。特例講習の実施は、2014年10月から24年3月まで完了となりました。